

神に称賛される私たちの生き方

光として輝け～喜びの再献身～

ピリピ 2:1～15

■ クリスマスのこのときに

クリスマスは時期だからこそ、「自分達のとっている行動で本当に後悔がないか」と振り返ってみたいのです。私たちが行える恵みがあるのです。今のあなたの心の向きを変える瞬間ではないでしょうか。今あなたがとっている行動や生き方を、そのまま貫いて良いのでしょうか。小さな積み重ねが大きな問題を招いていくことがあります。ピリピの3章は「信じることの喜び」信じることは何なのか。を教えています。

■ 死は神様からのギフト

神様は、私たちの人生に死という大切な時間を下さいました。もともとは、罪というものがなかったのに、死というものは私たちの中にはなく、死に追い立てられることはなかったのです。しかし、罪を招いた人間は、罪を制するために終わりというものが必要なのです。もし、終わりがなければ人はその罪を改めるチャンスがありません。死という存在があるからこそ、自らが終わるということを考えるのです。人にはゴールがあるからこそ、ゴールに向かう思いが与えられます。しかし、ゴールがなければ走る必要がありません。ですから神様は罪のない人間には永遠を与え、罪を持った人間にも永遠に向かうためのゴールを与えたのです。これが死です。ですから、私たちにとって死は呪いではなく、死は呪いのように見える神の愛のギフトなのです。死を招いたのは蛇であり悪魔の導きだったのですが、しかし、神は死を持って益と変えられました。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてください」ことを、私たちは知っています。(ローマ 8:28) 神様は全てを働かせてそうなるように、いにしえの人間(アダムとイヴ)の最初の罪(原罪)をも益に変えたのです。それがキリストの誕生です。最初(キリストの誕生)が人間の為の神様からのギフトだから最期(人間の死)もギフトなのです。だからこそ、死があるので生き様を考えてふるまう事ができます。

■ ピリピ 3:1-15

◎主にあって喜びなさい

喜ぶことを決断することにより、私たちは永遠の恵みを得られ変わることがありません。

◎犬に気をつけて、悪い働き人に気をつけて、肉体だけの割礼の者にきをつけて

喜ぶとは平和、安全なのです。私たちの行動を邪魔するものたちに気をつけなさい。悪魔は「わかるよ」と、開き直らせます。しかし、イエス様は理解してくれますが、自分が悪かったと気付かせて戻してください。罪も益とさせていただきます。「肉体の割礼」誘惑するものが私たちの周りにたくさんあるのです。すべては私たちのうちに罪があることを認めなければ、回復は起こりません。クリスチャンだから、洗礼を受けているからといって聖いわけではありません。問題が起こった時に聖霊による決断ができるかどうかです。パウロは人間的なものを頼るだけの特権を誰より持っていました。しかし、そのようなものに頼らないと決断しました。私達はどうか？私達にできることは「私を守って下さい。」と祈る事です。人間的なものに頼るのではなく、神様を信じて頼れるかどうかが大切です。

◎神から与えられる義

自分は間違っているのに正しい姿をして生きる人になりたいのか、自分は間違っていると認め、神には正しいと認めてもらえる人として生きるのかを、選ばなければなりません。私たちは神から与えられる義を持つことができる望みを持つことができます。

◎キリストの死と同じ状態になり

キリストは十字架に架かりながら、私たちの兄となり、苦しみを負いつつも望みが絶えることがないことを教えてください。

【ただ捕らえようとして、追求しているのです。

それを捕らえるために、人間的に頼っている物を捨てましょう。

◎一事に励んでいます

うしろのもの忘れ、ひたむきに勝利の冠を得る者として走りましょう。

◎神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。神様によって終わりがあり「よくやった」と言ってくれる時があるのです。その間を、全てを主にささげたいのです。

◎神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。

神様はあなたを失格者としません。

パウロがサウロだった時、神様は「ダマスコ(まっすぐな道)」を用

意されました。私達にも同じように「真っすぐに行け。」とされています。神様はハマルティア(的外れ)をメタノイア(悔い改め)に導かれます。それを選ぶのはあなたです。

■ ハブスブルク王家の最後の皇太子、オットー・フォン・ハブスブルク

650年間続いたハブスブルク帝国が崩れ去った後、亡命先で政治家としてまた王家の末裔として正しく生きた彼の葬式の中で、ハブスブルク家の厳かな儀式が行われました。

宮内大臣が固く閉ざされた鉄の扉を銀の杖で叩くと、霊廟の院長が尋ねる。

「そちは何者か。ここに入るを願う者は？」

「それがしは皇帝。オーストリアの皇帝にして、ハンガリーの王なる者ぞ」と答えると再び

「予はその者を知らぬ。当院に入るを願う者は何者なるぞ？」と問われ、

「それがしは皇帝フランツ・ヨーゼフなる者。ハンガリーの使徒王、・・・(中略)クラインの公なる者なり」と答える。院長はさらに尋ねる。

「予はその者を知らぬ。当院に入るを願う者は何者なるぞ？」

「それがしは、あわれな罪人の一人。神の恩寵を願う者なり」と3度目に宮内大臣がひざまずき答えると

「さらば、入るがよい」

と許され、鉄の扉が静かに開いた。

彼が何をしたかではなく、何を選んだから天国に行けるのでもないのです。あなたはどれだけ失敗しても神の元に行くことができます。それは神様からの一方的な恵みです。しかし、あなたがどう決断するかによってあなたに与えられるものを失うこともできるのです。

私たちの最期に神から贈られることば…

『キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。』(ピリピ 2:6-9) これがあなたの最期の日に読まれる神様のメッセージです。

ピリピの手紙は、この道を選ぶ人に祝福を与えると約束した手紙です。私たちはもう一度喜びたいのです。どのような状況があなたの目の前にあり、どのような裏切りがあっても、それらはすでにキリストが解決してくれたことです。あとはそれを私たちが受け取ることができるかどうかです。彼は受け取ることができるようにあなたの隣によりそい導こうとしています。だから私たちは今日あなたの痛みを神様に委ねて、あなたは神様と共に生きる道を選びたいのです。イエス様は私達と一緒にいる為にご自分を捨て、十字架に架されました。神の選びはただただ恵みです。だからこそ選ばれた私達はこの地上で何かをする義務があります。

あなはまだ自分の安心を得る為に頼るべきでないものを頼りますか？

人間的なものに心を向けて人生を歩みますか？

もう一度十字架を思い出して本当のクリスマスを知りたいのです。イエスキリストは全ての人から裏ざられ、最後に神様から見捨てられました。「我が神、我が神。どうして私をお見捨てになったのですか」それは、あなたにこの呪いの言葉を語らせないためです。彼が神を呪う言葉を発することで、あなたにその罪を犯させないためだったのです。彼は全てをあなたのためにそれを行いました。私達も今日その道を選ぶことができるのではないのでしょうか。私達に必要なのは祈りと賛美です。この地上で私達の為に十字架に架られる為に生まれたイエス様に「主よ。私にあなたの道を選ばせてください。」と祈りと賛美を捧げましょう。

(要約者: 澤口 建樹)

(2021年12月5日)